

利用目的	播種		施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生 草取量)	栽培上の要 点	施肥上の重点	刈取利用上の要 点	病害虫・雑草防除
	播種方法	播種量 (kg/10a)	成分 区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
青刈・乾草・サイレージ	散播	3~4	総量	2.4	1.5	2.2	出穂期 3回刈 (8~12t/ 10a) 中晩生品 種では12 t以上を 目標とす る。	1. 生育適温10~20℃ 6℃以下及び25℃以上で 生育停止。 2. 利用期間、利用目的により 品種を選定。 3. 播種後鎮圧し、圃場の均平 を図るとともに発芽を促進。	1. 基準量の外に 堆肥1.5~ 2t、苦土石灰 100kg程度を 施用。 2. 生育初期の追 肥は、基肥に繰 り上げて施用し てもよい。	1. 多肥栽培及び 冬期干天後の降 雨により急伸長 した若刈のイタ リアンは、硝酸 態窒素中毒に注 意する。	
			基肥	1.0	1.5	1.0					
			追肥	1.4	0	1.2					
			生育初期	(7)		(6)					
			1回刈後	(7)		(6)					
			播種期間								
			9月上旬 ~ 11月下旬								

作物名 エンバク

利用目的	播種		施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病害虫・雑草防除
	播種方法	播種量 (kg/10a)	区分	成分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>					
水	条播 45~60cm	5~6	総	量	2.2	1.5	2.0	1. 品種は早~中生種を選定し早播の場合は、途中青刈を組み合わせる。 2. 水田では酸性矯正、排水対策に留意する。	1. 基準量の外に堆肥1.5t~2t、苦土石灰100kg程度を施用。 2. 酸性に弱いのでPH矯正のため必要により苦土石灰を増施する。	1. 早播では、節間伸長期前にやや高刈し、再生草でホールクローツプサイレージを調整する。 2. 糊熟期を目安に刈り取る。	1. サビ病が多発する恐れがあるときは、早目に刈り取る。
			基	肥	1.0	1.5	1.0				
			追	肥	1.2	-	1.0				
			早播で青刈後		(6)		(5)				
			2月中旬		(6)		(5)				
			播種時期								
			9月上旬 ~ 11月下旬								

作物名 エンバク (年内ホールクropp)

利用目的	播種		施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病虫害・雑草防除
	播種方法	播種量 (kg/10a)	成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
ホー ル ク ロ ッ プ サ イ レ ー ジ	条播 45~60cm	6~8	総量	16	15	15	12月 中旬 ~ 2月 立毛貯蔵	1. 品種は極早生種を選定する。 2. 初芽及び初期生育が重要。	1. 基準量の外に堆肥1.5t~2t、苦土石灰100kg程度を施用。 2. 酸性に弱いのでPH矯正のため必要により苦土石灰を増施する。	1. 年内に乳熟期以降に連した場合に刈り取る。 2. 立毛貯蔵し2月位まで逐次刈りもできる。 3. 稗が中空であるため、サイレージ調製では細切りと踏圧を十分する。	1. 早播では、年によりサビ病の発生が見られる場合がある。
		8~10	基肥	10	15	10					
	散播	播種時期	追肥	6	-	5	1回刈 (4~6t/10a)				

作物名 飼料用大麦

利用目的	播種		施肥成分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草取量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病害虫・雑草防除
	播種方法	播種量 (kg/10a)	成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
ホ ー ル ク ロ ッ プ サ イ レ ー ジ	条播 45~60cm 散播	5~6	総量	10	12	9	糊熟期 1回刈 (4~6t /10a)	1. 年内利用の場合、早生種を選定する。	1. 基準量以外に堆厩肥1.5t~2t、苦土石灰100kg程度を施用。 2. 酸性に弱いので、PH矯正のため必要により苦土石灰灰を増加する。	1. 麦稈が中空であるため、サイレーシ調製で細切りと踏圧を十分ににする。	1. 普通栽培では、4~5月頃うどんこ病の発生が見られるので、抵抗性品種を用いる。
		8~10	基肥	6	12	6					
			追肥	4	0	3					
			生育初期	(4)		(3)					
		播種期間									
		年内利用 8月下旬 ~ 9月上旬									
		普通栽培 11月中旬 ~ 12月上旬									

作物名 イタリアンライグラス・飼料用麦 (又はエンバク) 混播

利用目的	播種方法		施肥分量 (kg/10a)				收穫期 (目標生草収量)	栽培上の要点	施肥上の重点	刈取利用上の要点	病害虫・雑草防除
	播種方法	播種量 (kg/10a)	成分区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O					
サイレージ・乾草・青刈	撒播 大麦(エンバク)は、条播も可	イタリアン 2~2.5	総量	2.6	1.5	2.4	12月中旬 下旬 1番草 大麦 (エンバク) 乳熟期 ~ 期熟期 2番草 刈り 出穂期 3番草 刈り 出穂期 3回刈 (8~10t /10a)	1. 大麦 (又はエンバク) の 年内ホールクroppサイレ- ジ栽培で9月上旬までに播種 しないと子実収量は期待出来 ない。 2. 大麦 (又はエンバク) の 品種は極早生種を選定する。 3. 散播は、イタリアンと大麦 (又はエンバク) を別に播種 し、ムラ播種のないように注 意する。	1. 基準量の外に 堆肥1.5t ~2t、苦土石 灰100kg程度 を施用。 2. 大麦 (又はエ ンバク) は酸性 に弱いのでPH 矯正のため必要 により苦土石灰 を増施する。 3. 大麦 (又はエ ンバク) は過繁 茂による倒節が 懸念されるので その恐れのある 圃場では生育初 期の追肥は施用 しないこと。	1. 年内に乳熟期 以降に遭した場 合に刈り取る。 2. 1番刈は大麦 (又はエンバク)が 大部分を占め、 2番刈以降はイ タリアンライグ ラスとなる。	病害虫・雑草防除
		追肥	1.6	-	1.4						
			生育初期	(8)	(-)	(7)					
			1回刈後	(8)	(-)	(7)					
	播種期間										
	8月下旬 ~ 9月上旬										